

# 第3回定例会

町長より行政報告がなされました。  
(内容は要約して掲載しています。)

・町長行政報告

## 意見書

道路の整備に関する意見書の提出について

北海道は、広域分散型の社会形成をし、住民の移動や輸送の大半を自動車交通に依存しており、道路は道民にとって最も重要な社会基盤となっている。

道路特定財源が一般財源化されたが、今後の道路整備については、必要な予算の確保とともに従来以上の早期推進が重要であると要望する意見書が可決され、関係大臣宛提出しました。



## 町長行政報告 (要旨)

### 農作物の生育状況について

6、7月の成長期における長雨、低温、日照不足などにより農作物の生育に大幅な遅れを生じ、大変厳しい状況にあります。

こうした中、秋まき小麦は順調で、調整後販売見込量は494キロ(8・2俵)で平年並み、品位も全量が一等麦となるよう調整中とのことですが、しかし、カボチャは大幅な減収の可能性が高く、またビートについては株の黄化、萎縮が見られたが、回復傾向にあり、今後天候回復に期待するところです。

飼料作物については、収量は平年並みを確保したが、品質は厳しい状況です。またデントコーンも生育は遅れているが、作柄は徐々に回復傾向にあり、今後も注視していく必要があります。

酪農、畜産における受託乳量は、冷夏により全道的には増加傾向にあるものの、本町では全体の計画乳量を下回るが見られ、より一層の飼養管理の徹底と目標乳量の達成に期待するところです。

### 漁業について

7月1日より開始の北海シマエビ漁は、昨年比18%減の18・4トンと計画設定し、8月5日に終了したところでした。

サロマ湖におけるホタテ採苗事業は昨年に続き不振で、オホーツク海の採苗器による組合員間の融通で確保した状況にあります。

外海ホタテ漁業は、9200トンの生産計画を達成できる見通しだが、価格、歩留まりともに低下傾向で、組合では下方修正も検討しております。

養殖ホタテ漁業は、計画1800トンを確保すると思われ、主に貝柱加工向けですが、今までにない歩留まりでキロ単価145円の計画に対し155円となっております。

ます漁業は早期群が多く好察が続いており、さけ定置漁業は、9月4日解禁となっており、期待が高まる中で回遊予想でオホーツク中部は昨年比33・3%減と不安要素もあるとのことでした。

### 国道333号線の路肩拡幅について

町道中園、啓生10線道路から

栃木にかけての国道333号線の路肩拡幅及び11線道路との交差点に係る右折レーンの設置の要望について、網走開発建設部北見道路事務所より回答があり、用地買収と拡幅工事等を含め3カ年程度で完成予定とのことでした。

### 公共事業の執行状況について

事業件数57件で総額6億2600万円のうち、8月末現在で41件5億500万円を発注済で、発注率は81%であります。

### 佐呂間厚生病院医師の退職について

8月末に佐呂間厚生病院事務長より、副院長である安尾医師から早ければ来年1月、遅くとも3月には厚生連を退職するとの申し出があった旨の報告を受けました。

医師の確保については厚生連本部と共に、内科医師の確保に向け今後努力することとありますが、私も今議会終了後ただちに厚生連本部を訪問し、現状の体制維持に必要な医師確保を要請を行う考えです。